

# 浦和大学発

## 研究レポート

□8□

人間と他の動物とを分かつ それを「言(こと)の葉は」  
のは「ことば」である。それと呼び、言霊(ことだま) 信  
を日常的にコミュニケーション 仰を見出した古代人たちは、  
この手段としている人間にと 何より「言の葉」に重きを置  
て、「ことば」は人間を人 き、畏れ敬ってきた。やがて  
間たらしめているときえ言え 「言の葉」は長い歴史を通じ  
る。「ことば」を発すること て育まれ、少なくとも千年以  
私たちは呼吸と同じくら 上も前から現代まで、美的に  
い、ごく自然にこれを身体化 昇華された「文学」を創出し  
している。しかし、他人の口 てきた。そこには人間の心情  
まねやおうむ返しのようなす や英智が蓄積されているだけ  
こぶる単純で素朴な動作でさ でなく、人間という存在その  
え、実は私たちの想像以上に、 ものの絶え間ない営みから表  
極めて複雑で困難な、人間的、 出された心の声が凝集されて  
社会的な行為なのである。 いる。

同時に、人間にしか、ヒト 書では、「源氏物語」のみな  
を社会的存在として「ことば」 らず、自然を写生した散文で  
を操りながら活動する人間に さえ、兵士や良妻賢母養成の  
育て、教え、導くことはでき ための教材にすり替えられ  
ない。たとえヒトとして生ま た。このことは、「ことば」  
れても、野生で育てば、2本 がいかなる時流の中でも力を  
した教育改革は、教育界外部

### 眞有 澄香 こども学部学校教育学科教授

## 〈ことば〉を見つめて

足で歩き、〈ことば〉で交流 有し、なおかつ生き物でもあ  
できる人間に生い立つことは ることを教えている。  
ない。

ところで、近年、頻繁に教

その〈ことば〉は、戦前の 育改革が行われている。その  
学校教育では皇国民育成のた 詳細については割愛するが、  
め 2017年には戦後9回目と  
なる「学習指導要領」の改訂  
と



て、ほとんどが内発的なもの る。  
ではないということである。 古代から畏敬の念を集めて  
換言すれば、これはどの改革 きた〈ことば〉なくして人間  
が必要とされるのは、学校教 社会は成立しない。大人が範  
育が世情に後れを取っている を示すことで、良識ある社会  
ことの裏返しである。 は持続される。そうした当然  
教育行政は時代を映す鏡で 至極のことを、私たちは見過  
はあるが、人間は人間によつ てはならない。これまで  
てのみ育つという教育学の の日常がいつも簡単に覆され  
原理原則は普遍である。〈こ てしまったコロナ禍だからこ  
とば〉はヒトが人である証し そ、決して世の盛衰や風潮に  
であり、アイデンティティ 流されることのない「生」の  
の根幹でもある。その〈こと 原点を見つめ直し、私たち自  
ば〉の芸術である「文学」は 身の〈ことば〉をより一層大  
時代を超える力を持つてい 切にしたいものである。

まあり・すみか 実践女子大学大学院博士課程単位取  
得後退学。東京学芸大学連合大学院博士課程修了。博士  
(教育学)。國學院大學大学院兼任講師。日本ペンクラ  
ブ会員。関東教育学会研究奨励賞受賞。専門は教育学・  
日本近代文学。著書多数。